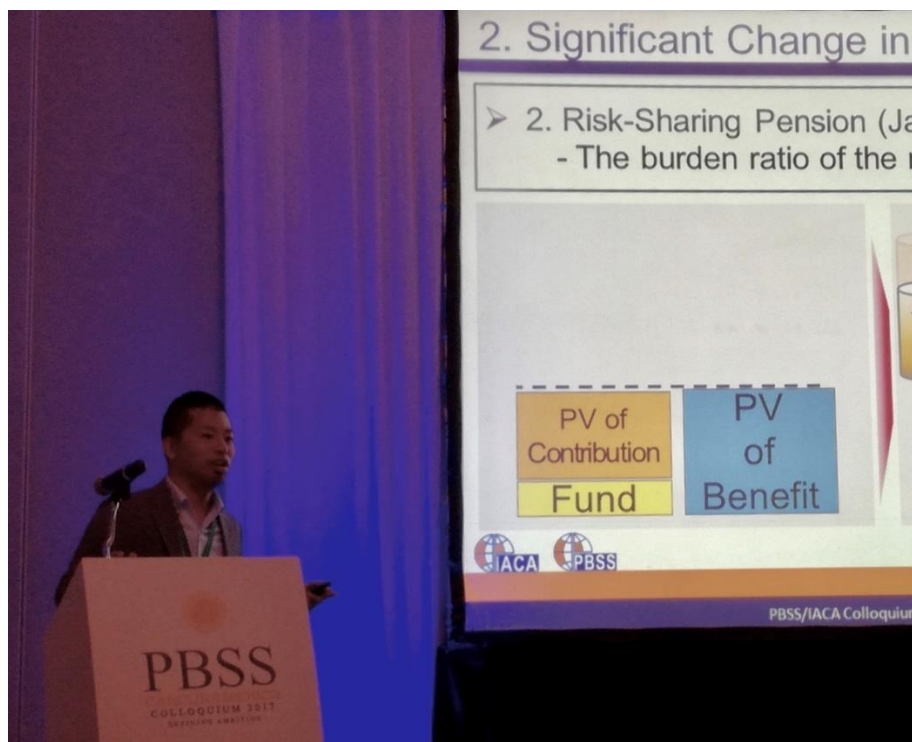


## 藤山和真さんの発表内容と感想



私の発表は、現地時間2017年6月5日16:15-17:45の”JAPANESE TRENDS ON PENSION AND SOCIAL SECURITY”のパートで、ファシリテーターは Tom Terry さん（国際アクチュアリー会 President）、同じ枠の発表者は立本貴大さん（日本生命、同じく当会より派遣）と日下部健児さん（みずほ信託銀行）でした。本稿では、私の発表内容を紹介しながら COLLOQUIUM の様子について報告させていただきます。

なお、発表までのプロセスおよびスケジュールは以下の通りです。

内容	期限	実績
発表者募集開始	2016/7~	-
Abstract 提出期限	2017/2/10	2017/2/10
選考結果暫定通知	2017/2/28	2017/3/3
プレゼン資料 (Draft) 提出期限	2017/3/31	2017/3/31
選考結果最終通知	2017/4/30	-
プレゼン資料最終提出期限	2017/5/15	2017/5/15

ご覧のように、当方からの提出期限は当然厳守したのですが、PBSS からの連絡は遅れがあったり、選考結果最終通知がなかったり（暫定通知にて確定していた模様）と、本当にカンクンに行けるのかと不安に思うこともありましたが、何度も確認メールを送るなどして、貴重な異文化経験となりました。

## 1. 報告の背景

2016年12月に確定給付企業年金制度関連の政省令等が公布され、リスク分担型企業年金制度が導入されました。しかし、経済危機発生時の対応や給付額に対する年金数理人の責任範囲等についてはまだルールが曖昧な部分が多く、年金数理人の中には当制度に対して懐疑的な立場を取る人が私を含め一定数いると考えております。

そこで、私の発表では、はじめにリスク分担型企業年金制度の主な特徴について紹介し、後半に当制度の抱える課題を具体的にあぶり出し、提言を行うといった形式としました。タイトルは **Practical Issues on Japanese Version of "Defined Ambition"** としました。リスク分担型企業年金制度を **Japanese Version of "Defined Ambition"** と表現することに抵抗のある方がいらっしゃるかもしれません。しかしこれは、Abstract 提出前に PBSS より提示された Topics に **Defined Ambition** が挙げられていたために、単に **Risk-Sharing Pension** と表記するよりは採用されやすくなるだろうという意図であり、それ以上の意味はありません。

## 2. 発表前のランチ会

発表の形式は、冒頭に触れたように 90 分の大きな枠の中で 3 人がそれぞれ発表し、ファシリテーターが感想を述べ、また聴衆の議論を促進する、といったものでした。そのため、事前にファシリテーターの Tom Terry さんと我々発表者 3 人が顔合わせを行うために、PBSS が当日のランチ会をアレンジしてくれました。

国際アクチュアリー会 (IAA) の President とのランチということで、私は自分の発表と同じくらい緊張していたのですが、Tom Terry さんは気さくに接していただき、無事自分たちの発表内容をお伝えすることができました。また、発表内容だけでなく、Tom Terry さん自身のキャリアの話など、若手アクチュアリーとして大変参考になるお話を聞くことができ、貴重な経験となりました。



ランチ会後の写真：左から立本さん、Tom Terry さん、藤山、日下部さん

### 3. 発表の様子

私の発表の概要は以下の通りです。

- 日本の年金制度の Overview
- DB における制度改正
  - リスク対応掛金
  - リスク分担型企業年金制度
- リスク分担型企業年金制度における課題
  - 経済危機発生後（調整率下降段階）における一時金選択が積立水準に与える影響
  - 掛金収入現価、給付現価および財政悪化リスク相当額計算時の基礎率が積立水準に与える影響と Pension Actuary の責任範囲
  - 資産運用結果が積立水準に与える影響と資産運用基本方針の決め方

質疑応答では、リスク分担型企業年金制度そのものに対する質問がいくつか出て、例えばカナダ人アクチュアリーからは、運用を極端にハイリスクにすることは可能なのか、といったことを聞かれました。また、Tom Terry さんからは、基礎率等の計算前提が給付額に直接影響を与える制度において、アクチュアリーの役割は既存のものとは異なり非常に難しいものになる、といったコメントをいただきました。

### 4. 大会全体の様子

大会全体としては約 40 組による発表および毎日のパネルディスカッションがあり、各国の社会保障、退職給付制度および人口動態等に関する報告がありました。その中でも特に日本は高齢化社会の最先端を走る国として注目されており、今後の大会においても長寿への対応についての報告が期待されているようでした。

また、発表内容の他に、海外のアクチュアリーのプレゼンスキルの高さに驚いたことも記しておきます。まるでスティーブ・ジョブズのようにステージ上をウロウロしながら、十分な間をとってプレゼンを行っていたアクチュアリーの多さに、日本のアクチュアリーとの違いを感じました。私自身、引き続き英語力の向上に努めるとともに、プレゼンスキルの向上も重要視しなくてはならないと考えました。

この他、夜には MEXICAN PARTY & DANCE が企画されており、メキシコ人アクチュアリーとダンスを楽しみつつ、爆音のラテンミュージックの中、大声で互いの職務内容や今後のキャリアを語り合ったのは良い思い出となりました。

### 5. 最後に

今回の COLLOQUIUM は、私にとって初めての単独での国際会議での発表となり、発表の構成から資料作成、プレゼン、質疑応答に至るまでを一人でやりきったことは、貴重な経験となりました。これらのサポートを頂いた大会委員の方々や、プレゼン練習会でコメントを頂戴した方々に深く御礼を申し上げます。

今回の経験は今後のキャリアを考える上で良い機会となりましたので、特に若手の会員の皆様には、今後の大会への応募をお勧めさせていただきます。英語への不安をお持ちの方もいらっしゃるかもしれませんが、私自身、大学時代英語の単位を落として大学に 5 年通う羽目になるほど英語が苦手でしたが、今回

の発表に向けて不十分ながらも何とかカタチにすることができました。

最終日に挨拶をした際に Tom Terry さんにかけていただいた” Keep on improving!”という言葉に胸に、引き続きスキルアップに努めたいと考えております。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった当会に御礼を申し上げるとともに、私の留守中私の代わりに1歳男児を保育園に連れていくために九州より上京してくれた妻のお母様に感謝の意を表して、結びとさせていただきます。

以 上